

岡山県難聴児を持つ親の会

# ひまわり

第43号

発行編集責任者 佐藤美穂

岡山市北区庭瀬384-2

発行 平成29年 4月



## 目次

- ①ごあいさつ 会長 佐藤美穂
- ②団体「ながればし」に参加
- ③先輩お兄さんお姉さんの職場の話
- ④難聴加配・教員拡充の要望書提出
- ⑤難聴者協会とのコラボ
- ⑥UD トークについて (老松小学校)

### ① ごあいさつ

会長 佐藤美穂

平素より岡山県難聴児を持つ親の会の活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

平成29年3月、娘は中学校、息子は小学校を卒業しました。

娘については、小学校6年間中学校3年間と難聴学級で守られてきて4月から何も支援のない高校進学への不安と期待でいっぱいです。

今いくら障害者差別解消法ができているとはいえ、高校進学する際にはいろいろな書類の提出や受験に対するお願いをしないとイケません。中には断られた学校があるのも事実です。これから先を考えるとまだまだ不安でいっぱいですが、まずは4月からの高校生活を思いっきり楽しんで、青春してくれたらと思っています。

またいろいろと情報を発信していきますので、今後とも難聴児を持つ親の会をご支援ご協力お願い申し上げます。

### ② 団体「ながればし」に参加して

●聴覚障害のある子どもの学習や進学をサポートする団体『おかやま・デフ・サポート・コミュニティながればし』が開催されている学習会へ参加しました。



毎回同じメンバーと、新規のメンバーが参加されています。しっかり勉強を見てもらいたい子、ゆっくりと見てもらいたい子、みんなとの楽しいお楽しみ時間を目的に参加している子、お兄さんお姉さんと交流をしに来ている子、進路相談をして、受験について、将来について話をしていたり、「ながればし」の学習会は、難聴児にとっての、大先輩からの暖かい指導をいただけます。

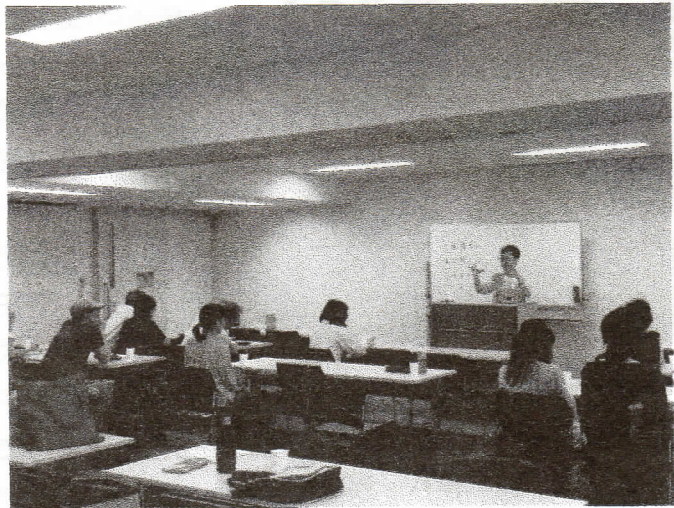
どの子も真剣に、とりくみ、真剣に遊んで帰宅します。今後も活動を共に行って、実りある会にしていけるように、サポートしていきます。みなさんも、ぜひ、参加してみてくださいね！

### ③ 六月に行われた先輩お兄さん、お姉さんの職場のお話

#### 最初はSさん

パソコン関係のものを扱っている会社で配送のお仕事をされています。

働きだして3年が経って仕事にも馴れて、職場の方とのコミュニケーションも楽しくなってきたそうです。



#### 次はMさん

宣子さんは職場で困ったことをお話してくださったので、難聴があることで社会でどんなことが問題になってくるのか考えさせてもらえるきっかけになりました。

印象的だったのは倉敷の市役所で働いたときに窓口対応をする時耳が不自由な事を名札の上にバッチをつけて窓口に来られた方に知ってもらおうとしたら、上司に止められたこと

銀行で働いた時は連絡は本人から必ず電話と強要されたこと

どちらも会社のなかではおこりそうな問題なので、こうした問題に親の会として取り組みたらと思いました。

#### 最後はHさん

高齢者の介護施設で働いているそうです。

廣田さんの話で印象的だったのは、仕事をする上でキチンとお互いに理解して進めるということを手を上手にされているということです。

介護の仕事は利用者さん、職員同士のコミュニケーションが大切な仕事です。

聞こえが良いかたでもコミュニケーション能力を求められるお仕事で苦手な方は苦労されていると思いますが、廣田さんはご自分のできること出来ないことをキチンと理解して出来ないことを相手の方に理解してもらった上で寄り添ってもらえる社会力のある方だと思いました。

本当にみなさんの良い話を聞かせていただきました。

ありがとうございました。

#### ④ 難聴加配の要望書を提出しました



平成 28 年 11 月 30 日(水)に、岡山市教育委員会へ岡山中央小学校「きこえの教室」への特殊加配について要望書を提出しました。

平成 29 年度より教育委員会は県から市に移行されることになり、次年度の要望から岡山市教育委員会のみ提出することとなりました。

現在学年によって人数も異なる状況で、複々式授業を避けなければ、子供達の個

に応じた授業が受けられないことや今の子供達の様子などを伝え、今後入学を考えている子供達の為にも、岡山市唯一の難聴学級として今までのような支援を受けられるように、一人一人強い想いを話しました。

そして、日頃よりご尽力いただいているお礼と共に、これまでの先輩方が築き上げてきた中央小学校の難聴加配の要望を継続していただきたいことを伝えました。

今年度も忙しい中、親の役員も一緒に参加して要望書を提出していただき、中央小の保護者として力強い思いに感謝いたしております。

平成 29 年度も親の会や保護者の皆さんのおかげで良い結果をいただけるようです。これからもより良い学校生活が送れるように、保護者同士協力していきたいと思ひます。ありがとうございました。

昨年度、初めて倉敷市立老松小学校の難聴特殊加配へむけて平成 27 年 11 月 11 日(水)に倉敷市教育委員会へ要望書を提出しました。老松小学校では学区外から車で多くの難聴児童が通っています。一教員、一補助員編成でした。現在一クラスに 3 学年計 6 名が在籍しています。難聴学級保護者一同、昨年要望書を提出する運びとなりました。その後、市議会議員の先生をはじめ、学校長に協力していただき、特別に許可をいただけることとなり、2 人担任制を確保することができました。

平成 28 年 11 月 16 日(水) 教員拡充の継続支援の要望書を提出しました。

今後は、継続して、担任拡充の要望書を提出し続けることで 2 人担任制を維持できることとなっております。

これまで、岡山中央小学校の多くの保護者の方々が要望を提出してきた強い思いと、素晴らしい行動力のおかげで、老松小学校の保護者の思いも真摯に受け止めていただけたと思ひます。

中央小学校、老松小学校の要望書提出へ協力していただいた親の会の皆様、保護者の皆様に感謝いたします。ありがとうございます！

これからもよりよい学校生活が送れるように保護者同士協力していきたいと思ひます。

## ⑥ 難聴者協会とのコラボ

9月25日に難聴協会主催の料理教室へ親子で参加しました。料理を通じて学校も学年も世代も違う方々と知り合うことができ悩みや不安を打ち明けアドバイスなどを受け自分だけが悩んだりしているわけではないのだと心強く思ったりして頑張ろうという思いになり

親子での参加も楽しめるけど、親だけで参加しても悩みなど話すことが出来て充実した時間が過ごせると思います。

小さなお子さんと参加されるのも子育てから離れて親だけで参加されるのも良いと思います。

## ⑥ UD トークについて

倉敷市立老松小学校で、夏休み中にUD トークについての勉強会を行いました。

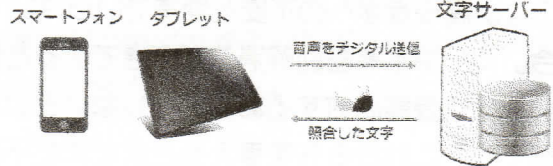
講師は、全国難聴児を持つ親の会四国ブロック代表幹事の鎌田浩二さんにお越しいただきました。

この勉強会は、皆様へ親の会としてのご案内を行っておりません。

倉敷市の教育委員会、老松小学校の校長先生をはじめ、先生方、支援学級の先生、支援学級の保護者が参加しました。学校と市教からの要望により、外部団体の参加が不可であったためご案内はできませんでしたが、参加された親の会の役員の私、高橋が感想を掲載させていただきます。



## UDトークとは？



### 【使用時の注意点】

- ・発音ははっきりと、句読点を意識してしゃべりましょう
- ・文字化されることを意識しましょう
- ・漢字の誤認識はあります
- ・複数人が一斉に話すと認識しません
- ・同じく雑音の多い(例えば音楽等) ところでは認識しません

講師の鎌田さんは、(有)高松ソリューションの代表取締役をされています。難聴者が使用する支援機器をわかりやすく説明していただきました。UD トークは、話者の言葉を即座にタブレットやスマホに文字化して難聴者が会話を目で見て分かる支援アプリです。UD トークの基本的な使い方と、応用編、実際に参加者で体験も行いました。

その後は支援機器として小学校でも使用できるか？学年に合わせた文字設定の実演など、Q&Aと実践を交えての、勉強会となりました。

教育委員会として、導入されれば、導入された市内の、小学校・中学校での導入が全て可能になります。今後の協議により、導入できるかが決まると思いますが、中学校生活ではとくに必要な支援機器であるなと感じました。